



アクティビティ STEP1-B1 問題蜘蛛の巣

学習者が様々な社会問題は相互に関わりあっていることを視覚的にとらえられるようにします。そして、今後、問題解決に向けてアクションを起こす際に、大規模なアクションを起こすことが重要なのではなく、些細だと思われるアクションや、身近にできることに取り組むことは意義深いと気付けるように種まきをします。

目的：自分が関心を持っている社会問題を知り、その他の社会問題との関連性をイメージできるようになる。

実施基準：★★★★

対象：小学校高学年～

形式：グループワーク / 全体

用意する物：付箋、大きな模造紙（黒板やホワイトボードに貼り付けることも可）

▼ 基本編 ワークの進め方：所要時間 40 分

1. 学習者が思いつく、または、関心を持っている社会問題を1枚の付箋に1つずつ書きだしてもらい（グループごとに考え、最低でも5個以上書き出すよう促す）。
2. 書き終わった付箋を模造紙に貼り付け、関係がある（繋がっている）と思う問題同士を線で繋げてもらう。なぜその二つが関係しているかも説明してもらう。（どのように影響を与えあっているかなど）。
3. 2の作業を繰り返し、線が増え、蜘蛛の巣のようになるまで続ける。
4. 1つの社会問題は他の問題の要因にもなり、結果にもなっており複雑に絡み合い関わっていることを、蜘蛛の巣の様な状態から視覚的に確認する。指導者は課題の一つを手で覆い、「この問題が無くなったら、どうなると思う？」と問う。ここで、「一つの問題を解決すると、波及効果で他の問題もポジティブに変化させることが可能」であることを確認する。
5. 各社会問題がSDGsのどのゴールに向け、国際社会が解決に向け頑張っているかゴールの番号を書いていく。可能なら、グループ内でもどのような解決策があるかを考えて発言を促す。全部の問題が解決に向かっていく状態になるまで続ける。



▼ 進め方のヒント：

学習者が社会問題を思いつかない場合は、指導者がヒントをだす。例えば、大きな社会問題のテーマを伝える。

例) 貧困・環境問題・テロ・差別・虐待・難民・児童労働・人身売買・食糧廃棄・いじめ・伝染病・失業など。

参考になるサイト:NHK(やさしい日本語で書いたニュースサイト) <https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>

▼ 事前学習編 ワークの進め方：所要時間 45 分

1. 学習者に気になっている社会問題に関するニュースを調べ、ニュース記事を持参するように伝える。
2. 調べたニュース記事を元に、学習者にクイズを 2 問程度作成するように伝える。
※3 択クイズ、数字クイズ、理由当てクイズなど。口頭質問で答えられるものを想定。
- 例 1) 日本の報道自由度は世界で何位? 1位の国はどこ? 例 2) 貧困ラインは 1日の収入何ドル?
3. 作成したクイズを、グループ内で出し合うように伝える。
4. 全員がクイズを出し終えたら、振り返りの時間を設ける。

「初めて知ったニュースがあったという人?それは何のニュース?」「なぜその記事を選びましたか?」など

5. クイズで出た社会問題やその他興味のある社会問題を書き出し、基本編ワークに繋げる。